

平成29年度 日本大学幼稚園 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学幼稚園は創設90年を数える。日本大学の自主創造の気風を尊び、幼稚園においては、自主性・創造的気概に満ちた感性豊かな人間の基礎を育む。保育者との信頼関係を基盤に一人ひとりの自ら育つ力を引き出し、調和のとれた発達と成長への道筋をつくり、バランスのとれた幼児教育を目指す。

【本校の特長及び課題】

保育方針である3つの柱を基に、幼児自らが、遊びへの興味の段階から楽しい挑戦と努力の段階へと進めるよう導き、人とつながり合う喜びを感じながら生活することで、生きる力を育む。

1 リズム

動と静のメリハリのある生活リズムを大切にし、生活習慣の確立と見通しのある安定した生活を導く。

2 バランス

外と部屋の遊び・個々の遊びと集団活動・体幹を鍛える運動遊びを大切にし、体力づくりと調和のとれた発達を促す。自主性・社会性を育む。

3 ドラマ

各行事・異年齢交流・植物の栽培・生き物との出会い等新鮮な体験により、創造性・意志力・豊かな心と温かい人間関係を育む。

園行事の運営について再確認・見直しをし、安全かつ円滑に進められるように検討する。特に仮設園舎で行う初めての行事は念入りに打合せをし、園運営の充実を図る。

また、新園舎完成に向けての本部管財部と施工業者との緻密な打合せを重ね、準備をし、新たな教育の場を構築することを課題とする。

平成29年度の取組結果

【概況】

- 1 保育日誌による省察を基盤に、個々の子供の育ちやクラスの様子・悩み・課題等を担任から園長に発信し、常に共通理解ができるよう心がけた。必要に応じて、職員会議や発達の専門家の講師を交えた園内研修で気になる子供の育ちの現状を取り上げ、発達課題を共通で把握し、園全体で同じ方向性で改善できる環境を目指した。
- 2 園行事に向けての活動の道筋は、全学年の教員で意見交換して、子供にとって最善の経験の場を導けるように協力し、今後の保育継承につながるように検討した。
- 3 仮設園舎で1年過ごした上で、見えた課題を、その都度、教職員全員で慎重に吟味・検討し、園生活や行事が安全かつ円滑に運営できるよう、後援会幹事を中心とする保護者の協力を得ながら実施した。
- 4 ホームページで、建設中の新園舎進捗状況や日頃の保育の様子を発信するとともに、教育・保育目標・本園の特色などをこれまで以上に明確に記し、多くの方に興味や関心を持っていただけるよう努めた。また、見学・入園希望者を対象に随時見学の場を設け、保育環境や保育の様子を実際に見ていただいた上で、園長から保育方針などを丁寧に伝えるなどして、新園舎への期待につながるよう広報手段として位置づけた。
- 5 仮設園舎と同じ敷地内の二つの施設（保育室「若杉」、重症心身障害児通所施設「わかば」）との交流を更に深め、今後の近隣地域との交流につなげられるように大切に過ごした。
- 6 新園舎完成後、在園児や保護者・来年度入園予定の保護者を対象に内覧会を開き、保護者や子供の期待に沿えるよう誠意をもって対応した。

教育課程・指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>保育の質を維持・向上できるように、カリキュラムの確認や見直しをする。</p>	<p>保育の質の維持と保育力向上を目指し、学年ごとに月案を確認し、見直すべきことはないか吟味して、遊びや生活に反映できるように日々努力を重ねたが、それを定期的に全学年の教員で確認・検討する時間が思うようにつくることができなかった。要因は新園舎完成に向けての検討・確認事項が多く、そちらに時間を要したためである。</p> <p>新園舎で迎える来年度は、新しい環境を生かした保育を見出せるよう、試行錯誤を積み重ね、新たなカリキュラムを作成できるように、月ごとの検討会を実行する。</p>	<p>C</p>
<p>保育者の力量を生かし、バランスのとれた仕事配分を考え、円滑に園を運営できるような環境を整える。</p>	<p>各教職員の仕事の分担表を作成して全教職員に周知した。それによって個々の仕事が明確になり、自覚を持って任務を果たせるようになった。今後も学年リーダーを中心に、組織的な運営ができる保育現場を目指したい。</p> <p>専任教員の人数が不足しており、一人ひとりの仕事の負担が大きいため、保育力向上のために、最も大切な園内研修を行う時間が思うように作れなかった。新園舎では、これまでにない新たな課題が出てくることが予想されるので、時間を有効に使い、研修の曜日を決めて意識的に取り組みたい。</p>	<p>B</p>
<p>発達上の諸問題への理解を深めることを通して実践の力量を高める。</p>	<p>日頃より個々の発達目標を持って、様々な経験を促している。運動面では、専門講師による運動遊びを、保育者が日常の遊びの中で意識的に取り入れて経験値を上げたり、手先を使う折り紙等も多く取り入れて、操作性を身につけるように心がけてきたこともあり、個々の成長発達に変化が見られるようになった。</p> <p>しかし、まだ運動面の弱さが見られる等、目標達成が難しい園児がいるため課題が残る。引き続きバランスよく発達を促せるようなカリキュラムを発達の専門家や運動講師と共に検討し、実践したい。</p>	<p>B</p>
<p>異年齢交流の場を大切にして子供の育ちを検証する。</p>	<p>日常の遊びや生活の中で異年齢交流を心がけた。今年度も、年中組と年長組を同じフロアにしたことで、他学年の遊びの様子が目に入りやすくなり、年中児は年長児に憧れて目標ができ、年長児もまた他学年との関わりの中で優しさや思いやりが育まれ、園内によい循環が生まれた。引き続き、この育ち合う環境を更に教育的効果を検証していきたい。</p>	<p>B</p>
<p>園生活での安全指導を行う。</p>	<p>室内や園庭でのルールを伝え、一人ひとりが意識を持って生活できるように繰り返し指導した。特に廊下の歩き方・トイレの使い方など保育者が見守り、安全に過ごせるように配慮した。</p> <p>新園舎はトイレが保育室からつながっているため、目が届き安全管理しやすくなることが期待される。</p>	<p>A</p>
<p>大雪の日は思う存分雪遊びが楽しめるように、十分な時間を確保する。</p>	<p>大雪の日、雪遊びの時間を十分に確保することで、子供達は思い思いに雪遊びを楽しみ、貴重な体験ができた。今後も臨機応変な対応を心がけたい。</p>	<p>A</p>
<p>運動機能を高める。</p>	<p>体幹を鍛え、バランスのとれた体をつくるためのプログラムが組み込まれた年間計画のもと、運動講師と保育者が共通の認識を持って実践した。</p> <p>今年、年長児にはチャレンジカードをつくり、できることが増えるたびに、シールが貼れるという楽しみを加えたことで、目標達成への意欲が高まった。週に一度、学年ごとの反省会も欠かさず継続し、各運動種目の目標達成度の確認を繰り返した。園児の運動能力向上の成果は見られるものの、外遊びの時間が不足する傾向が</p>	<p>B</p>

	<p>あり、運動の経験値や運動能力に個人差が見られるため、課題は残る。</p> <p>来年度は、園庭の鉄棒に加えて室内で使用していた可動式の鉄棒を設置し、興味が湧くように工夫をするなど、体を使って自ら遊びたくなる環境づくりを目指して園児に働きかけ、有効性を高めていきたい。</p>	
--	--	--

園生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>運動会・卒園式など新たな場所で行うため、入念に計画した。</p>	<p>昨年度の経験を踏まえ、今年度の運動会と卒園式を行う場所を検討した。運動会は園庭で、卒園式は遊戯室から敷地内の体育館に変え、収容人数に対して十分な広さが確保できる環境を心がけた。安全かつ気持ちよく行事が行えるよう、入念な打合せを繰り返し行った結果、保護者からも満足していただくことができた。</p>	A
<p>日常の健康衛生管理の習慣を徹底する。</p>	<p>インフルエンザなどの感染症予防や清潔を保つことの必要性を伝え、日頃から手洗い・うがいの徹底管理をしたり、ハンカチ所持や爪の衛生管理等の意識向上を目指して習慣づけてきた。</p> <p>年長児には登園時に必要なハンカチ・ちり紙・検温表などの所持品を自己管理できるよう指導したことにより、意識は高まったが、今後も保護者と園児への働きかけを継続し徹底していきたい。</p>	B
<p>登降園時、安全を第一に考えるよう繰り返し保護者に呼びかけ、危機管理意識を育む。</p>	<p>登降園時、徒歩通園の親子は手をつなぎ、自転車通園の際は、園児が必ず乗車をするように年度初めに保護者に周知徹底を目指したが、保護者の意識に差があるため、年間を通して日々声をかけ安全管理を行った。道路への飛び出しを防いだ。普段は習慣づいていることでも、園行事の際には、保護者から手を離して衝動的に道路に飛び出していくケースがあるため、門前に立っている警備員たちは、繰り返し飛び出し禁止を呼びかけている。</p>	B
<p>ルールを守り、隣接保育施設への配慮を心がける。</p>	<p>降園時間帯は、隣接保育施設の午睡の時間と重なることを繰り返し保護者や園児に伝えて、速やかに降園するよう働きかけたが、保護者の園庭での立ち話が多く、園児達が遊びだすという現象が起き徹底して習慣づけることは難しかった。新園舎でも引き続き速やかに帰る習慣をつけ、近隣の迷惑にならないよう働きかけたい。</p>	C
<p>安全衛生管理が徹底できるよう、餅つきのやり方を見直す。</p>	<p>「餅つき」は、毎年ノロウイルス等の感染症が流行る時期に行われ心配が絶えなかったため、今年度から、家族での試食を省き、園児の「餅つき」体験は継続し、給食で餅を食べる簡易的な流れに変えた。幹事を中心とした母親の手伝いの負担も緩和されたので今後はこの形で継続したい。</p>	A

情報提供・管理

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>園行事などに向けての活動の道筋を全教員で考え、助け合い、よりよい保育活動につなげる。</p>	<p>園行事の際、各学年目標や課題を持って活動するが、子供が活躍する場が多い年長組担任の精神的負担が大きいと、それを軽減できるよう、園行事に向けての活動の道筋について全学年の教員で意見交換をし、最善の経験の場を導けるようにし、今後の保育継承にもつながるような協力体制を心がけた。他学年の担任の支えやアドバイスにより年長組担任の活動の方向性は明確になり、個々の子供が力を発揮できる保育環境をつくることができた。</p>	B
<p>保育日誌による省察を基盤に、クラスの様子や個々の子供の課題など担任から園</p>	<p>保育日誌による省察を基盤に、個々の子供の育ちやクラスの様子・悩み・課題等を担任から園長に発信し、園長はそれを受け止めて、常に共通理解ができるように心がけた。必要に応じて、職員会議や発達の専門家の講師を交えた園内研修で気にな</p>	A

長に発信し、教職員間の共通理解につなげる。	る子供の育ちの現状取り上げ、発達課題を共通で把握し、園全体で同じ方向性で改善できる環境を目指した。 子供の姿を通して父母の悩みがうかがえる時には、園長や担任から父母に声をかけ、相談しながら子供を取り巻く環境の改善策を探った。今後も積極的に実行したい。	
登降園時の危機管理意識を育む。	強風時は駐輪する自転車が倒れやすいため、速やかに帰宅するよう働きかけたり、子供が一人で自転車に乗ることのないように監視しながら保護者に声かけをし、危機管理意識を育めるように努めたが、立ち話などで保護者が子供から目を離すことが原因で自転車が転倒することがあったため、引き続き安全管理を徹底する。 近隣警察署による交通安全指導をはじめ門前で声かけで、自転車通園の際のチャイルドシートのベルト着用とヘルメット着用の徹底を図ったが、保護者の意識の差があり、なかなか徹底できない現状があるため、今後も繰り返し保護者指導を行う。大雪当日とその後数日間は登園時間を遅らせ、親子が安全に登降園できるように配慮した。	B
新築工事の安全と近隣住民への対応を確立する。	工事の過程で、近隣住民の方からの要望や意見が届いた際、本部管財部と施工業者と園とが連携して協議を行い真摯に対応した結果、理解と協力を得ることができた。今後も引き続き近隣住民の声に耳を傾け、誠意を持って対応したい。	B
登降園の安全と近隣住民への配慮を確立する。	登降園時、歩行者の妨げにならないようにすること、車通園の自粛について保護者に繰り返し伝え、園庭と門前の管理には特に注意を払った。引き続き、保護者の安全意識向上を目指したい。	B
緊急時配信メールを有効に利用する。	行事の変更事項・雪の日の対応などの緊急連絡や、インフルエンザなどの園内感染状況を緊急時配信メールを利用して発信し、全員に確実に情報提供できるように努めた。少数ではあるがメールの確認漏れがあったため、日頃から投げかける必要がある。	A
新園舎竣工に当たり在園児や新入園児の保護者に報告をするとともに、これまでの理解と協力に対し感謝の気持ちを伝える。	在園児保護者・新入園児の保護者を対象に保護者会を開催し、新園舎竣工の報告やこれまでの理解と協力のお礼、新園舎での保育や注意事項、お願いなどを伝え、新年度を快く迎えらるるよう配慮した。 新園舎完成に期待をしている保護者と在園児を対象に内覧会を開催し、思いに応えられる様な対応を考え実行した。皆様に喜んでいただくことができた。	A
新園舎への期待と保育への関心が持てる内容のホームページを作成する。	新園舎建設工事の過程や1学期の遊びや生活の様子を写真で掲載したり、教育目標や特色などをより具体的に情報発信し、期待と関心を持っていただけるように努めた結果、多くの見学者が来園してくれた。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
完成度の高い園舎となるよう本部管財部や学務部・施工業者と綿密な打合せを重ねる。	三者で綿密な打合せ・確認・検討を重ね、安心・安全で納得のいく幼稚園完成を目指して全力を尽くした。理想の園舎完成とともに、無事故で完成に至ることができ安堵した。	A
重要整備計画の基、新園舎の環境設備を整える。	備品業者や引越し業者との打合せを密に重ね、漏れのないように細心の注意を払いながら進めた。 打合せ不足な点があった際も臨機応変に対応し、よい結果につながるよう努めた。結果、業者との信頼関係が築け、協力体制をつくることができた。	A

保護者との連携・子育て支援等

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
子供の育ちで気になる点があれば積極的に保護者に声をかけ、よりよい育ちの環境を共に考える。	気になる子供の育ちは、家庭環境に要因があることが多いため、必要があると判断した時には、積極的に保護者にアプローチして話を聞く場をつくり、改善への道を共に探る。保護者の子育ての意識が変わることで子供の育ちに変化が見られるので、今後もこのような場を大事にしたい。 昨今は、父親も悩みを抱えているケースがあるので、思いを感じ取り支援していきたい。	B
幹事を中心に、ボランティア活動を積極的に行う。	幹事が在園の母親に発信し、ボランティア活動として遊び道具の作成を企画・実行してくださった。引越し作業などで忙しい保育者の助けにもなり、保育者や子供にとって有り難く意味のある働きかけとなった。今後につなげていきたい。	A

地域との連携

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学第二高等学校との連携を大切にする。	11月の「落葉拾い」、1月の年長児の「凧あげ」などで場所を提供していただいた上、万全の協力体制で迎えていただき、安全に貴重な体験をすることができた。 運動会の際、二高からテントを借用し、敬老席確保を設置することができ、経費の削減にもつながった。 学生や教職員との素敵な交流の場が生まれるので今後も大切にしたい。	A
同じ敷地内の保育施設との信頼関係を築き、交流の場を増やす。	「保育室若杉」や「障害児施設わかば」の園長同士と、日頃から誘い合い連絡を取り合うことで、昨年以上に交流の場が広がった。園行事と一緒に参加させていただくなど楽しい交流も増え、親近感が持てるようになった。 様々な情報提供もできるようになり、よい関係を築くことができたので、今後もつながりを継続したい。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

平成30年度取組目標及び方策

教育課程・指導

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
保育の質を維持・向上できるように、新園舎の新たな環境を生かしたカリキュラムを検討し確認や見直しを繰り返す。	新たな環境で過ごす子供の姿をつかみ、遊びや生活で見直す点はないか吟味する。また、個々の園児の発達の課題を捉え、カリキュラムの確認・見直しを行い、学年毎の保育の方向性が一貫したものとなるよう、定期的に全学年の教員で確かめ合う。	年間を通して教職員間の打合せを密にする。
保育者の力量を生かし、バランスのとれた仕事配分を考え、円滑に園を運営できるような環境を整える。	専任教員の人数が不足しているため一人ひとりの仕事の負担が増えているが、保育者の力量を生かし、バランスのとれた仕事配分を考える。効率的かつ円滑に園を運営できるよう、各自の仕事分担を明確にし、言葉にして確認しあう習慣をつける。	
園児の運動機能を高める遊びや生活を考える。	バランスのとれた発達を促すよう運動講師と連携し、現代の子供に不足している動きが経験できる遊びや運動種目を取り入れ、運動能力向上につながる	園児の運動機能を高める。

	<p>経験を増やす。</p> <p>運動の経験値に個人差があり、運動能力にも、ばらつきが見られるため、個々の発達状況を把握した上で到達目標を定め、それぞれの子供の課題に添った働きかけをしていく。</p>	
<p>保育力向上を目指す。</p>	<p>個々が一つひとつの遊びや活動を深く味わい、様々なことを敏感に感じ取りながら、心豊かに園生活を送れるように、保育者は常に先を描きつつ日々の保育を振り返り、子供の育ちを確認し丁寧に保育の道筋をつくる。</p>	<p>遊びと活動・園児の発達を総合的に捉えて、一年間の保育の道筋をつくり、保育力向上を目指す。</p>

園生活への配慮

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
<p>日常の健康衛生管理の習慣を徹底する。</p>	<p>日常から虫歯予防や感染症予防、ハンカチ所持や爪の衛生管理の大切さを伝え、園全体で習慣づける。</p> <p>母親の意識に差があるため、引き続き園児と保護者の健康衛生管理を働きかける。</p>	<p>定期的なハンカチ所持・爪の検査を行う。</p>
<p>保育室の配置を検討する。</p>	<p>新園舎は、2クラスがトイレでつながっているため異年齢クラスを隣り合わせに配置して、年長児が年中児の世話がしやすい環境にする。そうすることで、子供だけでなく保育者の負担が軽減できることが予想される。</p>	
<p>近隣公園の利用の仕方や路上のマナーなどを保護者に投げかけ、近隣住民に迷惑をかけないように指導する。</p>	<p>新築工事の際に得た理解や協力を忘れず、引き続き近隣住民の声を真摯に受けとめ、誠意を持って対応する。</p>	<p>運動会の際の、近隣住民への事前周知や、教職員が率先しての落葉掃きなど、できることを探し実行する。</p>
<p>登降園時の安全に対する保護者の意識向上と、時間などルールを守ることを習慣づける。</p>	<p>徒歩通園の親子は手をつなぎ、自転車通園の際は、必ず乗車するなどルールを明確にし、道路の飛び出しを防ぐ。</p> <p>登降園の時間や閉門時間を守れるよう繰り返し声をかけ、習慣づける。</p> <p>交通ルールについては近隣警察署による指導も取り入れ安全意識向上を図る。</p> <p>園庭が駐輪場となる降園時は、保護者の立ち話や遊びを禁止し、速やかに降園するよう繰り返し声をかけ習慣づける。</p>	<p>年間を通して安全に配慮しながら実施する。</p>
<p>ホームページの充実を図る。</p>	<p>平成30年度は新しいホームページを開設できるよう準備する。多くの方に新園舎での保育に興味や関心を抱いていただけるよう保護者のニーズに合った内容を提供する。</p>	<p>念入りに検討する。</p>

情報提供・管理

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
登降園時の保護者の安全意識を高められるよう、様々な場面でルールを周知し、徹底した安全管理を行う。	駐輪場周辺での遊びや立ち話禁止など、安全に気持ちよく過ごすためのルールを手紙や懇談会などで周知し、繰り返し投げかけ、管理を徹底する。また事故防止に努める。	
園児増加を目指し経営の改善に努める。	子供と丁寧に向き合う保育を継続できるように配慮しつつ、途中入園の園児を積極的に受け入れ、収支の改善につなげる。	園児増加を目指し経営の改善に努める。

管理運営

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
新園舎に不具合が生じた場合、すぐに対応し改善作を考える。	建物に不備不具合はないか 過ごしながら日々点検・確認し、改善できることがあれば、すぐに対応し、安全管理を行う。	
経費削減を目指しつつ、安全・安心な保育施設を確保する。	新たな保育環境であるため、安全・安心を確かめながら過ごし、不都合に気づいた時には速やかに対応する。	経費削減を目指しつつ、安全・安心な保育施設を確保する。
本部学務部と連携し、来年度の組織的新体制確立に向けて検討する。	大学本部と連携し、専任保育者の検討や円滑に園運営ができる組織の新体制について十分に検討し、来年度に備える。	本部各部署と連携し、計画を進める。
登園時の安全な管理体制をつくれるよう、卒園児の母親の協力を得る。	登園時、安全な動線をつくれるように、新学期最初は誘導係を配置する。人手がないため、卒園児の母親に協力を求め、ボランティアを募り体制をつくる。	

保護者との連携・子育て支援等

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
空き部屋を利用して新たな課外教室増設の準備をする。	情操教育につながる内容の課外教室を検討し、子育て支援の場として生かすとともに収入増につなげる。	
夏季休暇中、スポーツクラブなどの特別企画を実施する。	課外教室のスポーツクラブと提携して夏休みの特別イベントを企画し、子育て支援として役立てる。	
子育ての悩みを持つ保護者と共に子育ての方向性を考え、精神的サポートに努める。	母親の心の状態と子供の行動は連動するので、気になる行動をとる園児の母親には、引き続き、子育てを支えられるよう配慮をし、必要があれば発達の特任専門家と園長とが連携して子育て相談を行い、支援に対する強化体制を整える。	子育ての悩みを持つ保護者と共に子育ての方向性を考え、精神面でのサポートに努める。
元仮設園舎敷地内の各施設とのつながりを継続し、新たな交流の場をつくる。	少し距離はあるが、コンサートなどの行事に誘ったり散歩で遊びに来てもらったりして、新たな交流の場を見つけていく。	コンサートや季節のよい時期の散歩などに誘う。

地域との連携

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
近隣の天沼小学校幼保小連携の取り組みに積極的に参加する。	小学校との連携を図り、有意義な取り組みとなるように位置づける。	近隣の天沼小学校幼保小連携の取り組みに積極的に参加する。

中長期的目標及び方策

教育課程・指導

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
新園舎設立を機に、教育目標を全教職員で再確認し、保育体制を見直し、よりよい教育環境を整えていく。	教職員全員で教育目標を確かめ合い、全教職員が教育目標を理解して一貫性のある教育現場を目指す。また、園児が増えても、保育者が一人ひとりの園児と丁寧に向き合い、安定した保育を継続できるように保育体制を考え整える。	新園舎設立を機に、教育目標を全教職員で再確認し、保育体制を見直し、よりよい教育環境を整えていく。
発達のチェック機能を高める。	様々な角度からの視点で、個々の発達チェックを行い、発達の課題を見つけ、克服を目指して適切な働きかけや援助ができるよう、丁寧に着実に子供を育てる幼稚園を目指す。	運動の講師とも発達の視点からの問題意識の共有を図る。 基本的な発達を捉える視点と、「発達障害」についての理解は、専門書や研修会参加で修得する。
大学とのつながりを生かした保育現場を目指す。	スポーツや芸術等で本学学生との交流を大切にするとともに、園児の興味や関心を深めて豊かな創造力・知的好奇心を育む。	大学とのつながりを生かした保育現場を目指す。

園生活への配慮

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
危機管理意識の向上に努める。	安全衛生面も含め、園行事等の安全性を教職員が確かめ、必要があれば見直していく。	危機管理意識の向上に努める。

情報提供・管理

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
ホームページの充実を図る。	在園児保護者のニーズに合った最新情報の提供ができるホームページを立ち上げる。 本部関連部署と連携し、ホームページの内容について見直しを図っていく。	

管理運営

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
新しい教育環境や今後の園の構想を練る。また、保護者に周知する時期や内容を明確にする。	大学との連携を求め、質の高い教育を（運動や芸術等）園の保育現場に取り入れていけるように検討していく。	

保護者との連携・子育て支援等

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
子育てサークルの実施	子育ての悩みや不安を解消するなど子育て支援をするため、0歳から3歳の乳幼児親子対象の子育てサークルを実施する。 親同士が子育てに関する情報交換や相互協力ができるよう、また、子供にとっては友だちづくりができる場を提供する。	
未就園児保育と子育てサークルの実施	子育て支援とともに子供の自立心を助長し、園児獲得につなげることを目的とし、入園前の2歳児の親子を対象として、2歳児保育を実施。初年度は、母親の悩みや子育ての不安、子供の育ちの実態を知り2歳児保育の基盤をつくる。	
課外教室の増設	情操教育の一環として希望者対象とした課外教室の充実を図るとともに空き部屋を利用し収入増につなげる。	
保護者のニーズに合わせた子育て支援の運営を図る。	充実した預かり保育、子育て支援の講演会等を実施する。 未就園児親子対象の子育て支援の場も視野に入れ、育児中の保護者のサポート体制の将来的なビジョンを検討していく。 新園舎での構想の中で、新たな課外教室を取り入れることも視野に入れて、子育て支援の充実を図る。	保護者との連携・子育て支援等

地域との連携

具体的取組目標	具体的取組方策	取組スケジュール
近隣住民との信頼関係を大切にす。	近隣住民の声を常に把握し、真摯に対応するよう努める。 新園舎は近隣住民の理解と協力があつてこそ完成できたことを忘れず、常に誠意をもって向き合い、信頼関係を育む努力をする。	